



安川電機 (6506)

2005年9月 中間決算説明会(要約版)
(2005年11月14日)

説明者 取締役社長 利島 康司

- | | |
|-------------------|----------|
| 1. 2005年9月中間決算概要 | 1 - 5 頁 |
| 2. 2005年度の課題と取り組み | 6 - 10 頁 |

当社の事業概要および名称

システムエンジニアリング: (S)

2004年度売上 449億円

【主要製品】

上下水道用電気計装システム
鉄鋼プラント用電機システム、新システム機器 等

【主要子会社】

安川モートル

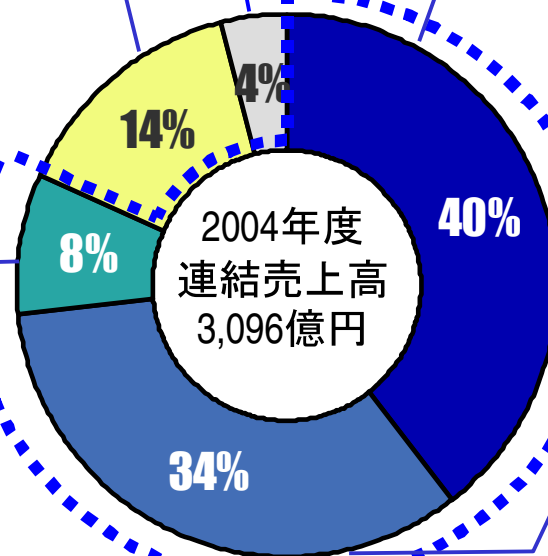
情報 (東証2部上場の2社で構成)

2004年度売上 254億円

【主要子会社と製品】

- ・ワイイーデータ
レーザー応用システム
コンピュータ周辺機器 等
- ・安川情報システム
情報処理ソフト・サービス

その他



モーションコントロール: (M)

2004年度売上 1,229億円

【主要製品】ACサーボモータ、コントローラ、リニアサーボ、インバータ等

【主要子会社】

- ・安川エンジニアリング
- ・安川コントロール
- ・米国安川電機 (米国)
- ・欧州安川電機 (ドイツ)
- ・安川電機 (上海) 有限公司 (中国)



ロボティクスオートメーション: (R)

2004年度売上 1,051億円

【主要製品】

- ・INR (産業用ロボット): アーク・スポット溶接・塗装ロボット、フラットパネルディスプレイ (FPD) 搬送ロボット
- ・SER (半導体製造装置用ロボット): 半導体製造装置用クリーン・真空ロボット 等

【主要子会社】

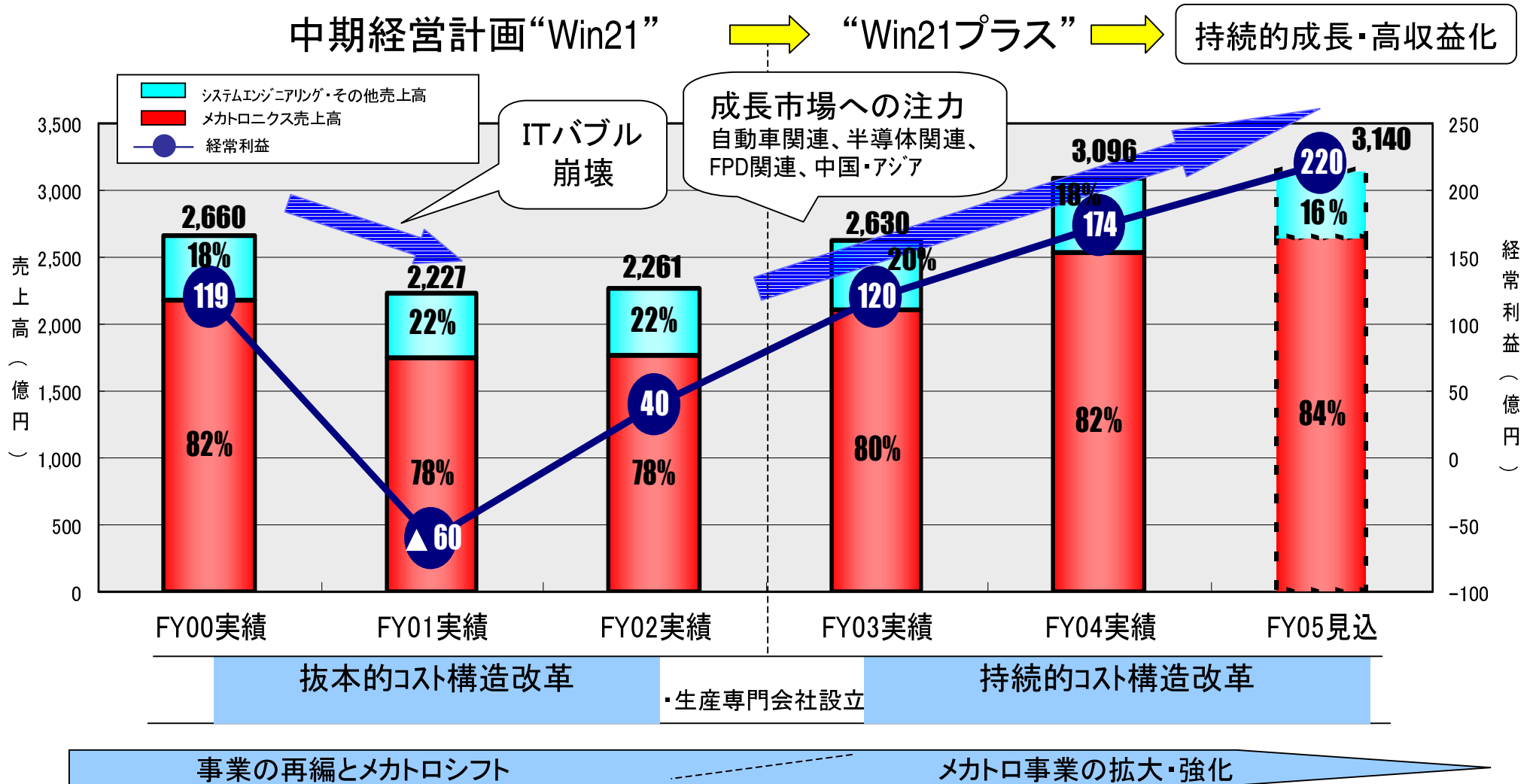
- ・モートマン (米国)
- ・モートマン ロボティクスヨーロッパ (スウェーデン)
- ・モートマン ロボテック (ドイツ)
- ・シナティクス ソリューションズ (米国)



**当社のコア事業である
メカトロ事業に注力
(売上高の82%)**

メカトロ事業とは、モーションコントロール、ロボティクスオートメーション及び情報の各セグメントを指す。

最近の業績推移 ~V字回復から持続的成長・高収益化の段階へ~



2005年9月中間決算のポイント

1. 中間期として過去最高の業績

売上高1,461億円、営業利益81.6億円、経常利益81.8億円、当期利益27.4億円
いずれも過去最高を更新

2. (R)は自動車向け拡販と生産強化が進展し、収益性が大幅に改善

(R)売上高:前年同期比38億円増の543億円
営業利益:前年同期比1.6倍の44.0億円
営業利益率:04年度上期5.5%→05年度上期8.1%

3. (M)は採算改善と市場開拓で半導体向けの減少をカバー

(M)売上高:前年同期比1.9億円増の615億円
営業利益:前年同期比3.8億円減の46.1億円

4. (S)は利益構造改革を着実に遂行

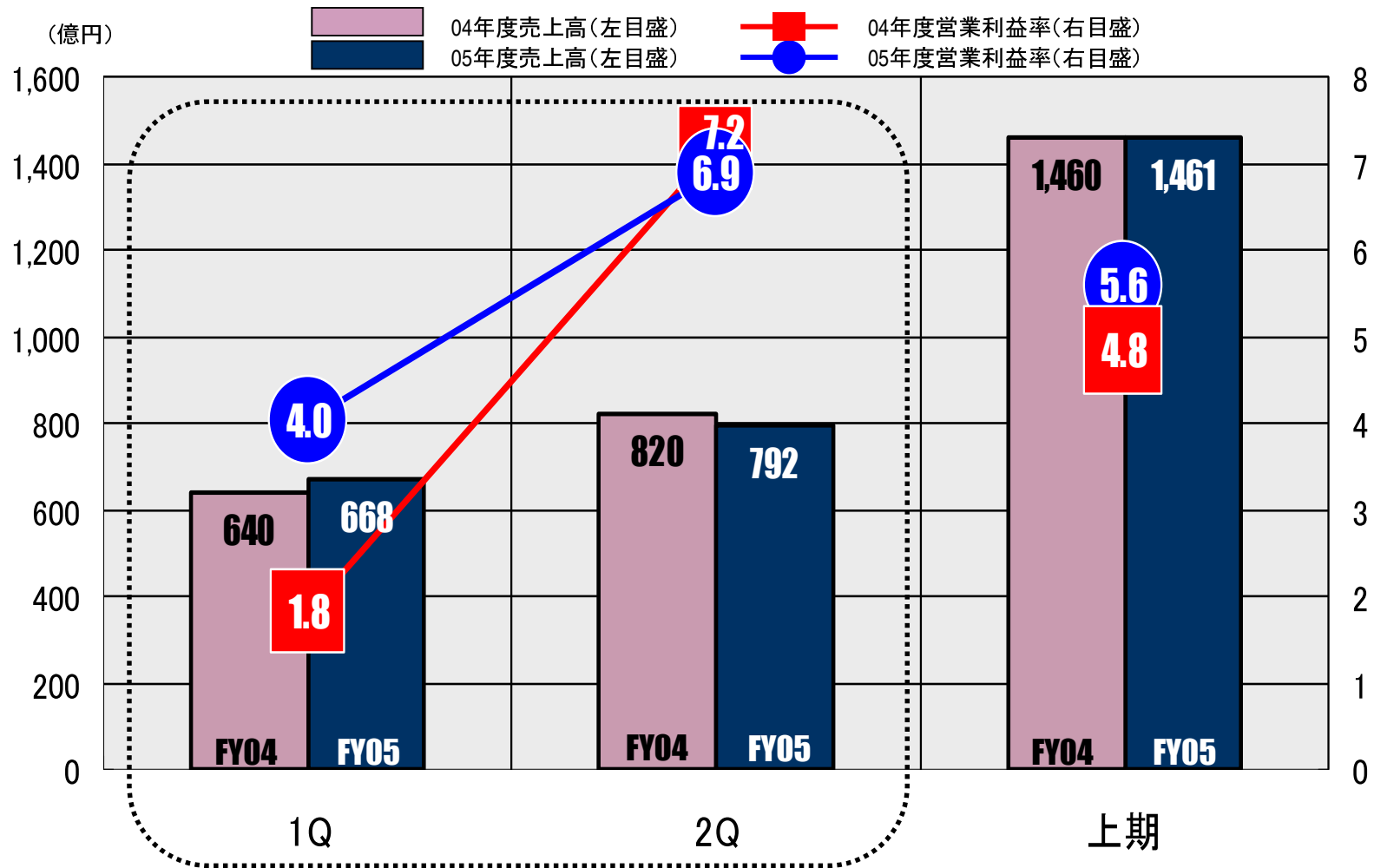
人員適正化を期初に実施
単独ベース、上期受注高は計画以上

5. 欧州、アジアを中心に海外売上高が拡大

前年同期比6%増の667億円
海外売上構成比率:04年度上期43%→05年度上期46%

連結売上高、営業利益の推移(上期四半期内訳)

上期売上高は前期比横ばいながら、収益性の改善が進む



2005年9月中間期セグメント別決算概要

(R)は売上・利益ともに期初計画以上

(M)は半導体減少による利益減を最小限に止めた

(単位:億円)

セグメント		04上	05上		前期比増減	
			期初	実績	期初	実績
(M)	売上高	613	601	615	▲12	+2
	営業利益	49.8	33.7	46.1	▲16	▲4
(R)	売上高	505	534	543	+29	+38
	営業利益	27.6	35.7	44.0	+8	+16
(S)	売上高	160	149	144	▲11	▲16
	営業利益	-21.5	-16.2	-18.6	+5	+3
情報	売上高	116	118	110	+2	▲7
	営業利益	6.1	5.1	1.9	▲1	▲4
その他	売上高	65	48	48	▲17	▲17
	営業利益	7.8	5.7	8.2	▲2	+0
合計	売上高	1,460	1,450	1,461	▲10	+1
	営業利益	70.4	60.0	81.6	▲10	+11

2005年度連結業績見通しのポイント

1. 利益予想を上方修正。2期連続で過去最高を更新する見通し

営業利益 (従来)205億円 → (今回)222億円(前期比26.7%増)

経常利益 (従来)200億円 → (今回)220億円(前期比26.3%増)

2. (R): 拡販と生産性改善を継続し、更に利益率を高める

3. (M): 市場開拓と採算改善を両立

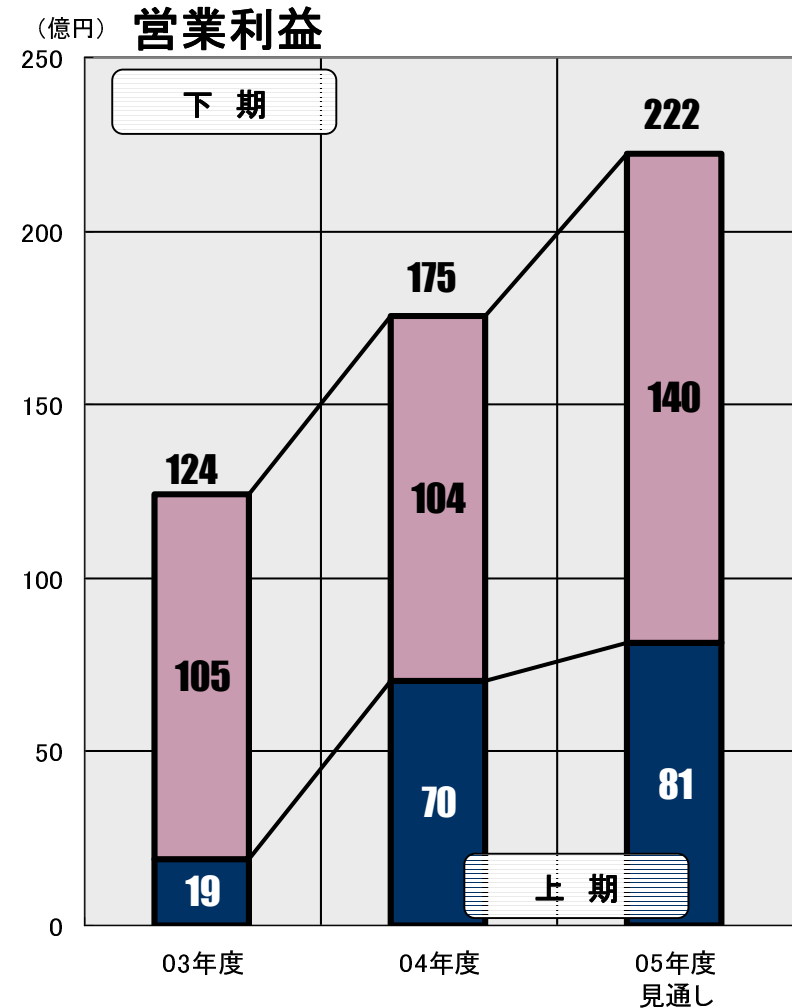
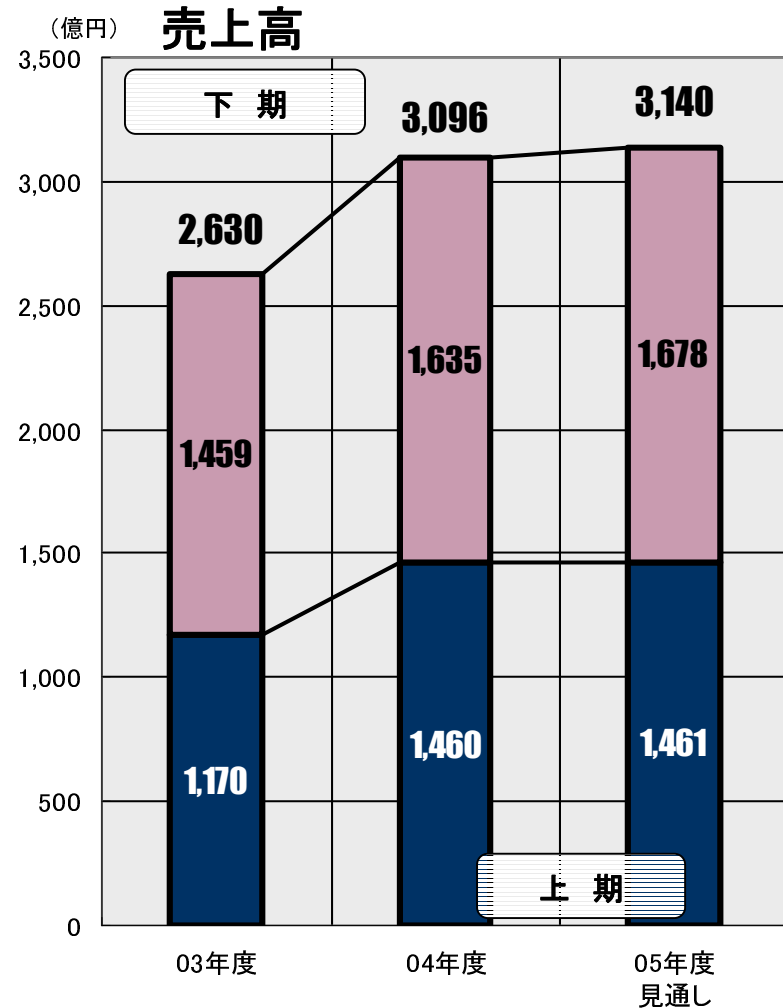
4. (S): 利益構造改革により収支均衡へ

5. 情報: 安川情報システムの下方修正は一過性要因

6. 期末復配予定。期末配当5円＋創立90周年記念配当1円

2005年度の連結業績見通し

収益性の改善が更に進展する

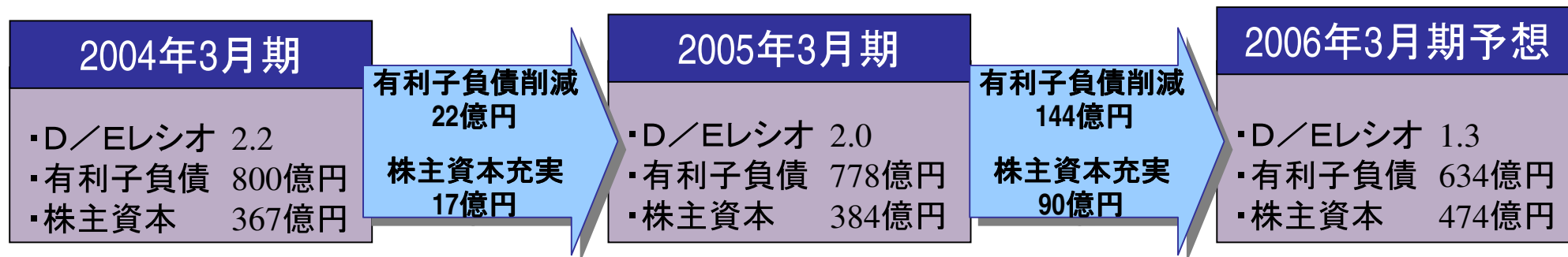


2005年度利益増減内訳(連結:概算)

(2004年度比、年間)



B/S構造改革(連結)



	2004年3月 実績	2005年3月 実績	2005年9月 実績	2006年3月 予想
有利子負債	800億円	778億円	722億円	634億円
株主資本	367億円	384億円	421億円	474億円
D/Eレシオ	2.2	2.0	1.7	1.3
連結棚卸資産	543億円	527億円	590億円	500億円
回転期間	2.5ヵ月	2.0ヵ月	2.4ヵ月	1.9ヵ月

2006年3月末時点で、
D/Eレシオ1.3まで改善する
見通し

棚卸資産の増加は一時的。
下期解消見通し。

リスク要因

①市場環境

半導体・液晶関連市場について、緩やかな回復傾向は見られるものの、調整局面が長引く恐れがある。

②原材料・部品価格のさらなる上昇

想定範囲内にとどめるよう最善の努力をしているが、引き続き強い値上げ圧力を受けており、利益圧迫要因となる恐れがある。

③海外市場の減速

米国及び中国経済の想定以上の減速により、輸出の減少等の悪影響を受ける可能性がある。

(ご参考)2005年度上期為替実績 1ドル=109円 1ユーロ=136円
下期為替想定 1ドル=105円 1ユーロ=130円

注記

本資料に記載されている業績見通しは将来の予測であり、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。

実際の業績等影響と与える重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。

なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。